

1995年の九州地方の気象概況

兵庫県南部地震で明けた1995年の九州地域の気象は、9年連続の暖冬で始まり、春は通して低気圧や前線の影響を受けて高温・多雨・寡照となった。桜は4月上旬から中旬にかけ満開となり、平年より遅くなった。また昨年春から続いた少雨傾向はほぼ解消した。

本年の梅雨入りは九州南部で5月下旬後半、北部は6月上旬後半で、梅雨明けは南部で7月上旬後半、北部で中旬前半で平年並みであった。今年の夏は梅雨明けの7月下旬までは低温、多雨、日照不足と一昨年の夏を思い出させるような天候が続いた。しかしながら、8月に入ると連日最高気温が30℃を越し(福岡54日、鹿児島57日)、真夏日の連続記録といった言葉が新聞、マスコミをにぎわせた。九州地域内観測地点の12官署で1994年の高温の記録をさらに更新した。

秋は9月中旬や11月上旬には低温が顕著だったが、10月中・下旬はかなりの高温となるなど、気温の変動が大きかった。特に10月は高温であったが、11月は低温へと大きく変化した。降水量は台風の影響もなく、少雨傾向で平年よりかなり少なく、日照時間はかなり少なくなった。

本年の自然現象として、雲仙普賢岳の噴火がほぼ終息したが、一方大分県南西部に位置する九重連山の星生山が10月11日に1738年以来257年ぶりに水蒸気爆発を起こし、火山灰を降らせた。

農業における気象災害被害は本年も少なく、水稻の作況指数は九州平均106であった。

1. 9年連続の暖冬

1月上旬の九州地方では前半は発達した低気圧の影響で、この時期としてはまとまった降水があり、中旬前半と下旬後半には西高東低冬型の気圧配置が続いた。南部では上旬は気圧の谷や冬型の気圧配置がときどき現れ、曇りや雨の日が多く、中旬を中心に冬型の気圧が強まり初雪を観測した所があった。下旬の前半は低気圧の通過に伴い暖かい南風が吹き、4月上旬並みの陽気になった日もあった。その後上空に寒気が入り寒い日が続いた。月平均気温は北部で平年並みからやや高く、南部ではやや高かった。月降水量は鹿児島でやや少なかった他は平年並みで、月間日照時間は北部で平年並みからやや多く、南部で宮崎がかなり多かった。

2月の北部では冬型の気圧配置が上旬の前半まで続いたが、その後は移動性高気圧に覆われて晴れることが多く、少雨傾向となった。南部では上旬のはじめまで冬型の気圧配置が続き、気温の低い日が続いたが内陸部や東部では比較的晴れの日が多かった。月平均気温は北部で平年並みからやや高く、南部では平年並みで、月降水量は北部でかなり少なく、南部はやや少なかった。

2. 高温・多雨・寡照の春

3月の北部は上旬半ばと中旬後半に強い冬型の気圧配置が現れ、気温が下がり、寒気の影響でまとまった雨が降った。下旬の終わり頃広い範囲で数十ミリの降水があった。南部では上旬から中旬にかけて高気圧に覆われたため、晴れの天気が多かったが、下旬は一時冬型の気圧配置になった日があった。月平均気温は平年並みからやや高く、月降水量は熊本、佐賀で少なく他は平年並みで、月間日照時間は宮崎でやや多かった他は平年並みであった。

4月は上旬移動性高気圧に覆われることが多く晴天が続いたが、上旬末頃から前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。月平均気温は平年並みからやや低く、月降水量は宮崎でかなり多く、熊本と鹿児島がやや多かった他は平年並みで、月間日照時間は平年並みからやや少なかった。

5月上旬の北部では月初めに低気圧が対馬海峡を通過したため、雷を伴い各地で大雨が降ったが、その他は移動性高気圧に覆われたため晴天が続いた。中旬と下旬の天気は短い周期で変わった。南部では上旬前半は前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、その後は移動性高気圧に覆われることが多く、夏日となった日もあった。下旬は前線の影響を受けやすくなり下旬の後半に梅雨入りした。月平均気温は北部で平年並みからやや低く、南部は平年並みからやや高かった。月降水量は北部で平年並み、熊本と長崎でやや少なかった他はかなり多く、南部は平年並みからやや少なかった。月間日照時間は北部で熊本が平年並み、福岡でかなり多かった他はやや多く、南部はかなり多かった。

3. 梅雨顕著で夏前半は低温多雨、後半は猛暑の再来

6月上旬は北部で移動性高気圧に覆われることが多く、晴れの日が多かったが、3日に低気圧の影響で広い範囲で数十ミリの雨が降り、上旬の後半に梅雨入りした。南部では梅雨前線が九州南部付近に停滞し活発化したため、大雨となったところがあった。中旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が続いたが、降水量は少なかった。南部では梅雨前線が奄美地方付近に停滞し、奄美地方では大雨の降る日もあったが、九州南部では晴れる日もあった。下旬は梅雨前線が再び九州南部付近に停滞したため、ぐずついた天気が多く、南部では各地で大雨となった日があった。各地の月平均気温は北部で平年並みからやや低く、南部はやや低く、月降水量は北部では福岡でかなり少なかった他は平年並みからやや少なく、南部は宮崎でやや多く、鹿児島はかなり多かった。月間日照時間は宮崎でやや少なかった他は平年並みであった。

7月は梅雨前線が九州付近に停滞したため、6月30日

から始まった雨は7日まで続き、総雨量は800mmを超えた所があった。その後は太平洋高気圧の勢力が次第に強まったため、晴れの暑い日が続いた。時々太平洋高気圧の勢力が弱まりにわか雨や雷雨が降り、22～23日は台風3号が東シナ海を北上したため、北部では大雨が降った所があった。なお、九州地方は南部・北部ともに上旬の後半に梅雨が明けた。月平均気温は宮崎でかなり高く、鹿児島でやや高かった他は平年並みであった。月降水量は北部で福岡がかなり多く、他は平年並みからやや多く、南部は平年並みからやや少なかった。月間日照時間は平年並みからやや多かった。

8月は太平洋高気圧に覆われたため暑い晴れの天気が続く、昨年と同じように猛暑の日が多かったが、中旬頃高気圧の勢力が弱まり大気の状態が不安定となったため、局地的にわか雨や雷雨となり大雨が降った所があった。月平均気温は全域でかなり高く、月降水量は北部では大分がかなり少なく、長崎でやや少なかった他は平年並みからやや多く、南部の宮崎がかなり少なく、鹿児島はかなり多かった。月間日照時間は北部で平年並みからやや多く、南部ではかなり多かった。

4. 台風の少ない秋で、11月以降順調な寒さ

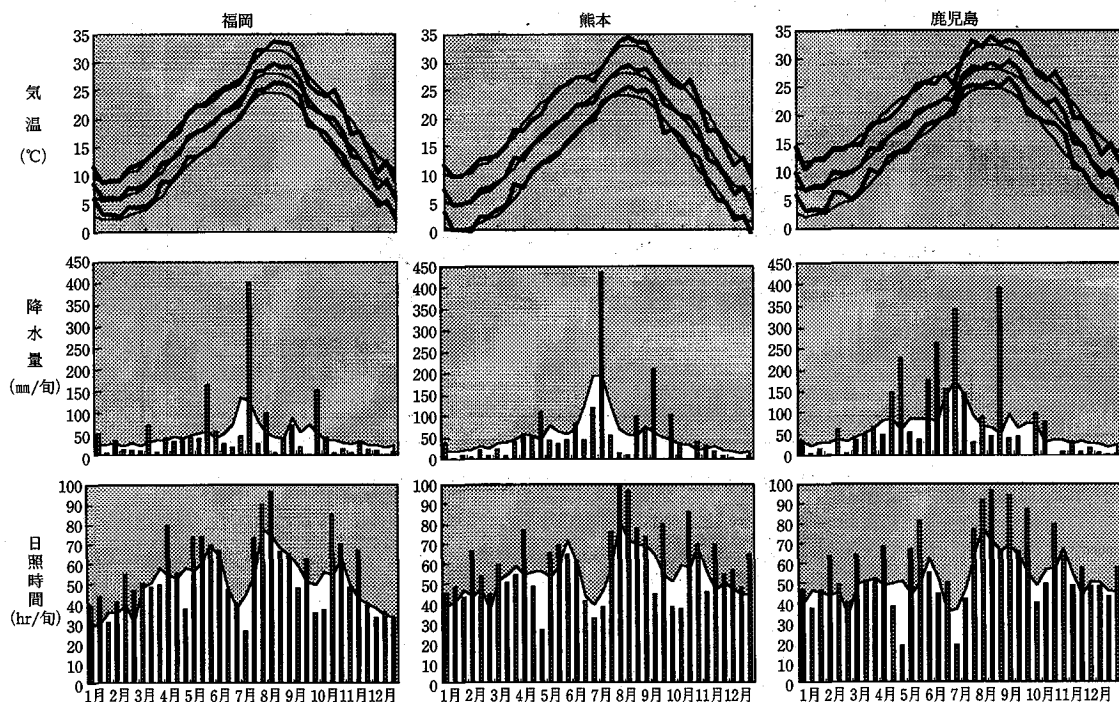
9月上旬は太平洋高気圧の勢力が弱く、前線が九州付近に停滞したためぐずついた天気が多く、大雨の降った所があった。中旬になると移動性高気圧に覆われるようになり、気温が下がるようになった。下旬は台風14

号や前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、台風の影響で大雨の降った所もあった。月平均気温は宮崎でやや高かった他は平年並みで、月降水量は熊本でかなり多く、鹿児島でやや少なかった他は平年並みからやや多かった。月間日照時間は北部で平年並みからやや少なく、南部でやや多かった。

10月上旬の北部の天気は周期的に変化し、南部では秋雨前線が南海上に停滞したため一時ぐずついた。中旬以降は全域で移動性高気圧に覆われることが多く、暖かい晴れの日が多かった。月平均気温は北部でやや高く、南部ではかなり高かった。月降水量は北部で平年並みからやや少なく、南部で平年並みであり、月間日照時間は北部で熊本が平年並みとなった他はやや多く、南部で平年並みであった。

11月は10月とは変わり低温となった。上旬と下旬は西高東低の強い冬型気圧配置になることが多く、強い寒気が入ったため気温の低い日が多かった。中旬は移動性高気圧に覆われことが多く晴れの日が多かった。月平均気温は平年並みからやや低く、月降水量は熊本で平年並みとなった他は全てやや少なく、月間日照時間は平年並みからやや多かった。

12月上旬は西高東低の強い冬型気圧配置は続き、次々に寒気が流れ込んだため、気温の低い日が多かった。中旬は一時冬型の気圧配置が緩み気温も上昇したが、中旬末頃から再び冬型の気圧配置は強まり、厳しい寒さと



第1図 1995年の福岡・熊本・鹿児島の気象概況

注) 細線は平年値、太線と棒柱は1995年の旬の値である。

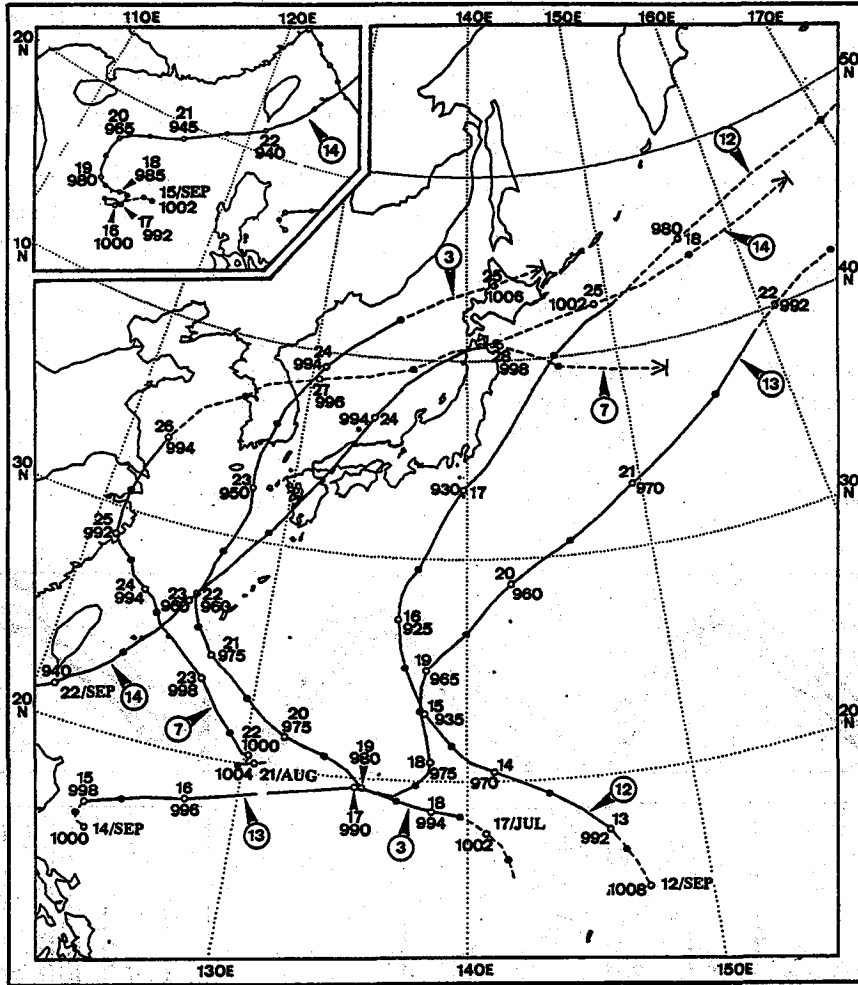
なった日があった。月平均気温は全地域でやや低く、月降水量もかなり少なく、月間日照時間は平年並みからやや多かった。

5. おわり

1995年の気象は気温変動の大きな年であったが、台風の接近・上陸も少なく気象被害も少なかった。水稻の

作況指数は全国平均102とやや良で、前年の109に次ぐ豊作であった。このように、1995年の天候の第一の特徴を一言でいえば、夏の長雨から猛暑への劇的変化であった。

(九州農業試験場生産環境部)



第2図 1995年に日本に影響した主な台風の経路 (滝下, 1996)

実線は台風の経路、破線は温帯低気圧あるいは弱い熱帯低気圧の経路を示す。
 円内の数字は台風番号。
 経路上の白丸は09時 (JST)、黒丸は21時の位置で、数字は日付と中心気圧を示す。
 左上図は台風第14号の南シナ海における経路。